

リニア中央新幹線岐阜県駅開発の地域影響分析 ～地域計画に着目して～

愛知大学 地域政策学部 地域政策学科 まちづくりコース4年 戸田ゼミナール 後藤真輝

1. はじめに

建設中のリニア中央新幹線は岐阜県中津川市にリニア岐阜県駅が設置されることになっている。

本研究では文献調査から岐阜県駅が地域にどのような影響を創出するか、各自治体や団体によって認識にどのような差があるか明らかにする。

また、実態調査からリニア時代に向けた意識、計画の有無、そして計画の実行段階について明らかにする。

2. リニア中央新幹線の概要

国は中央新幹線の意義について3大都市圏の高速輸送や災害に備えたバイパスの役割が主としており、中間駅については付帯意見で駅アクセス圏の拡大や交通結節性の強化が重要とされた。

品川～名古屋の開業は2027年の計画であったが静岡県内の水問題の影響で現在は開業時期が未定となっている。

3. 岐阜県駅および駅周辺における施設

リニア岐阜県駅はJR中央本線の美乃坂本駅に隣接して設置される計画である。岐阜県駅を高度なトランジットハブとして機能させるため、駅周辺は立地規制がなされ、駐車場空間の確保や高規格道路とのアクセス道路整備も計画されている。

4. 岐阜県駅開業がもたらす影響

岐阜県では2014年に『岐阜県リニア中央新幹線活用戦略』を策定し、開業効果波及が期待されるとして「観光振興・まちづくり」「産業振興」「基盤整備」の3分野において地域づくりの方向性を検討し、それぞれの活用戦略と実現するために重点的に展開する施策がまとめられた。

駅が設置される中津川市では2013年に『中津川市リニアのまちづくりビジョン』を策定した。このビジョンでは、市内15地区全てで特性を踏まえて取り組み方針がまとめられた。各地区がリニア開業と地域づくりの関係を考え、住民の意識や気運を高める良いきっかけとなったと考えられる。

5. リニア時代に向けた取り組みの実態調査

岐阜県内の団体(42市町村・観光協会・経済団体)を対象とし、リニア時代に向けた取り組みの現状や意識についてのオンラインアンケート調査を行なった。計114通をメール送信し、回答数は65件、回答率は57.0%。

リニア開業で影響が出ると回答した団体は各地域で見られたが、駅開業効果は駅から遠い地域ほど期待しないという傾向が見られた。

リニア開業効果を岐阜県駅と名古屋駅のどちらに期待するか問うと後者が半数を占め、前者は東濃地域に集中した。

また、県の活用戦略の認知度は約6割に留まっており、リニア時代を見据えた取り組みの進捗状況について、何らかの動きがあり団体は全体の12.5%であった。

静岡県内の水問題でリニア開業が遅れていることについて、影響が全くないと回答した団体は50.0%、あまりないが25.0%、多少影響が出ている団体は全体の3.1%であった。

自由記述で頂いた意見には広域観光ルートの設定など、他団体との連携が必要だというものが複数あった。

6. 総括

県の活用戦略はリニア岐阜県駅の効果波及範囲を広げる施策が大半だが、県内には名古屋の駅勢圏も広く、岐阜県駅と名古屋駅の各駅についての戦略が必要である。

岐阜県には観光資源の多さなど、地域ごとに特性が異なる。駅から遠い地域でもリニア時代に向けて意識を高めるには、中津川市ビジョンのように地区ごとの細かい計画が必要である。

複数団体の連携のためには、県が主導で体制を構築することが必要と考える。団体ごとに役割の棲み分けがなされれば、ひとつのチームとしてリニア時代に効率的に向かえるのではないだろうか。